

コミカルな落語に笑顔



ユーモアを交えながら落語を披露する塚田さん（神原中で）

神原中で人権教育参観日

神原中（岡田浩典校長）

つた。

で7日、岩国市の障害者支援施設ひかりの里施設長の塚田拓司さん（66）による落語・講演会が開かれた。全校生徒179人と保護者を前に「私も大切、あなたも大切」人を笑顔にするコミュニケーション」をテーマに語

人権教育参観日の一環。塚田さんは県内の中学校校長や県教育委員会審議監を歴任し、現在は「由宇亭拓の輔」の芸名で落語を披露している。元教員と障害者支援の経験も生かし、言葉や生徒指導、人権に関する講演活

動にも取り組んでいる。

い声であふれた。

前半の高座では、日常を題材に両親や教師が繰り広げるコミカルな落語を披露。豊かな表情と巧みな話術で生徒たちを引き付け、会場は拍手や笑

講演では「言葉」について、言葉には魂が宿っており、人を幸せにすることもあれば使い方によっては不幸にもすると説明。相手を褒めることで

人同士のコミュニケーションを円滑にし、さらに「さすが」「すごい」「素晴らしい」の三つの言葉を使って、相手を認めることも大切とまとめた。

野村恭一郎君（3年）は「言葉の重要性を改めて感じる良い機会になった。今後、人を注意するときは怒るのではなく、まず褒めてから自分の気持ちを相手に伝えたい」と話した。

野村恭一郎君（3年）